

研究課題名

自己造血回復後の染色体異常の出現と臨床経過についての検討

(課題番号 1 2 7 7)

疫学研究実施についてのお知らせ

国立成育医療研究センター小児がんセンターでは、以下の疫学調査研究を実施しています。

2016年9月27日

【研究課題名】

自己造血回復後の染色体異常の出現と臨床経過についての検討

【研究期間】

倫理審査委員会承認後～2019年3月31日

【研究の意義・目的】

同種造血幹細胞移植をおこなった後に、ドナーの造血幹細胞が生着せず、患者自身の造血が回復することがあります。その中で、とても稀ですが、造血器腫瘍の細胞がない状態にもかかわらず、骨髄を検査した際に染色体異常が検出されることがあります。この染色体異常の意義や、そのような状態になったときにどのような治療をするべきなのか、よくわかっていません。そのため、全国の移植が登録されているデータを収集して臨床経過を把握することによって、治療法の確立などに役に立つと考えています。

【研究の方法】

※対象となる方 1976年～2014年に同種造血幹細胞移植を受け、生着不全により自己造血が回復し、さらに骨髄検査で白血病や骨髄異形成症候群などの造血器腫瘍に関係しない染色体異常が検出された方

※利用するカルテ 治療経過、血液検査や病理検査などのデータ

【個人情報の保護について】

この研究のためにご自分のデータを使用してほしくない場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局に平成 29 年 5 月 31 日までにご連絡ください。データの処理は、個人が特定されない状態でおこないます。研究の結果は上記の目的のために学会・論文で発表いたしますが、結果の公表も個人が特定されない形式で行います。ご不明な点がございましたら、主治医または研究事務局へお尋ねください。

【本研究に関する問い合わせ先】

調査研究代表者

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1

国立成育医療研究センター 小児がんセンター

医長 加藤 元博

TEL 03-5494-7120 (7782)、 FAX 03-5494-7136、

E-mail : kato-mt@ncchd.go.jp